

滝上町外国語指導助手  
Jordy's  
コーナー



透き通るようなタイのビーチ



丸ごと飲むココナッツジュース♡

ゴールデンウィークに友人とタイへ行きました。その友人は今年アメリカへ帰るので、私との最後の旅行になりました。タイには2人とも行ったことがなくて、とても楽しみでした。

最初は上海に2日ほど滞在しました。私は中国にも行ったことは無かったけれど、興味があって色々調べていました。アメリカ人が中国で3日以上長期滞在するにはビザの取得がとても難しいので、2日の滞在で済んで良かったです。見て回れる所は空港の近くで、繁華街とは違ったけれどすごく楽しかったです。上海の人はとても親切で優しい。

いよいよタイに入って、景色を眺めるととてもきれいでした。現地の方はどの人も気さくでたえず笑顔でした。宿泊は綺麗な海で有名なプーケット周辺に宿をとってシュノーケリングを体験しました。澄み渡るような青い海と色とりどりの魚を存分に堪能しました。タイの日差しは強くてヨットの移動の15分で日焼けをしてしまうほどでした！

タイでは食文化も満喫しました。私はココナッツと辛い食べ物が好きで、タイの食べ物には大変興味があります。父親が辛いものが大好きで小さい頃から一緒に食べていたからでしょうか？

タイの食べ物事情で、まず驚いた事はビールと水が安い事です。だいたい日本の3分の1位のお値段で買えちゃいます。屋台でも色々見たり食べたりしました。次にフルーツも安いのです。大好きなココナッツは1つ丸ごと買えて、何とその場で丸ごと切っ、天然のジュースが飲めてしまいます。他にもマンゴーやドリアン、パッションフルーツ等沢山の果物を買いました。

タイはとても暑かったけれど魅力的な所でした。まだまだ行ってみたいところが沢山あるので、また訪れる事ができるかわからないけれど、今回旅する事ができて本当に良かったです！



おぐり アイ  
小栗EYE

郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます！

「張板（はりいた）」

伝統的衣類の着物は、昔は一度仕立てたものを着古してしまうのではなく、何度もほどこして仕立て直して着ました。着物の仕立て直しては、着物をほどこいて、もとの布地に戻し、洗濯をして糊をつけて、板に貼って乾かします。この板を「張板（はりいた）」といい、この作業を「洗い張り」と言います。張板は幅約四センチ、長さ約百八センチくらいのもので、大きさは多くは朴ほおの木の一枚板です。

布でこして、この液を水で薄めて使います。張板を斜めにして、下から布を貼っていきます。糊を刷毛ではいてブラシで平らにながらびつたり張り付けます。一番上までいってたら、板を裏返して余った布を裏に回して、今度は下に向けて布を貼っていきます。全部貼り終わったら日向に出して乾かします。乾いた布をビールとかがす爽快感。洗い張りが終わると布の傷んだところを繕って、また縫い物です。

元通りの着物に戻ります。洗い張りは着物だけでなく座布団や布団がわめの側布がわもしました。布団ですと解き物と縫い物も大量です。打ち直した綿を入れ、作り直した布団はふかふかで、横になるとほっこり辛さを感じます。「借り衣裳より洗い張り」といって布地は傷んだこところを繕いながら、何度も縫い直し大事に使いました。絹物や高級品は専門の「洗い張り屋」さんに出しました。洗い張りは洋服が流行しだした昭和十年頃からだんだんさなくなりました。

それでも布団がわの側等にはときどき使われていたようです。着物をほどこし洗濯して洗い張りしました縫い直すのは女の人の仕事でした。昭和四十年頃に洗濯機が出来るようになって、女の人の仕事がわが少しだけ楽になったようです。



↑郷土館収蔵の「張板」